

(陳受23第 8 号)

三鷹駅北口駅前広場交通機能改善についての市の提案に反対することに関する陳情

受理年月日

平成23年 5 月26日

陳 情 者

境南町 4 - 7 - 15 ハイツ甲陽103号
檜橋 隆

陳 情 の 要 旨

市は三鷹駅北口駅前広場の車両と歩行者の交錯を改善するため、現在の駅から真っすぐ北上する横断歩道を廃止し、新たに広場東に横断歩道を作ろうと提案しています。

市の提案では、駅からコの字形に導線を変える計画を立てています。これは誰が考えてもわかるとおり、人間の本性に反するものです。人はA点からB点へ行こうとする場合、本能的にもっとも近い導線をとろうとします。わざわざコの字に行こうとする者はいません。交通事故を防ぐ目的でしょうが、朝夕のラッシュ時では特に車道を通って直進しようとする歩行者が数知れず、かえって危険が増すことは必定です。ちなみに、三鷹駅北口前の歩道利用者は1日当たり3万人です。

ならば、今でも歩行者、自転車、自家用車、タクシー、バスで飽和状態の広場の利用解決策として、例えば、駅前バス通りにバス降車場を作る方法が考えられます(過去にはここにバス降車場を設置していました)。市の計画よりも、バス降車客は30秒～1分位余計に歩かねばなりません、これは問題ないでしょう。

現在市は、関係近隣住民団体、会社の代表と意見交換会を行っていますが、当初の計画を大筋で変える考えは全くなく、ただのガス抜きの場です。このことに限らず、市は何かを決定するとき、住民参加と称した委員会を立ち上げ、このことを住民に秘匿し、後に説明会を開き、住民の意思を反映した事項であると説明します。いわゆる、由らしむべし、知らしむべからずという徳川時代そのものです。

これは市民協働サロンの事実上の市役所内の廃止にも言えることです。市長初め行政は、優秀で誠実に勤勉に業務に精励されていることはよく承知していますが、この一点に限って言えば、市長がよく言われている市民協働は偽善以外の何物でもありません。

ゆえに、上記の市の提案の白紙撤回を求めます。